

女性・男性特有の健康課題って何？

女性・男性特有の健康課題とは、具体的にどのようなものなのか、なぜ注目が集まっているのか、その社会的背景や問題点について、まずは確認してみましょう。

▶ 月経

月経不調による労働損失は年間4,911億円

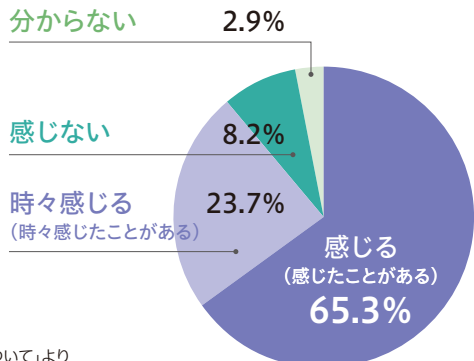
働く女性の大きな課題の一つが月経です。福岡市調査では、89%もの働く女性(※1)が、月経痛や月経不順などの不調を感じたことがあると回答しています(図1)。また、月経関連の症状による労働損失(欠勤や労働量・質の低下等)は年間4,911億円にものぼると試算され(※2)、経営的な視点からも無視できない状況です。

※1 調査対象者:福岡市内で働く20~60代女性

※2 平成31年経済産業省「健康経営における女性の健康の取り組みについて」より



図1 | 月経関連の症状を抱える割合



n=623
出典/福岡市(※)

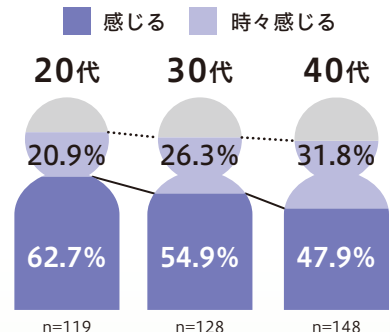
▶ PMS 月経前症候群

悩む女性は多いのに…認知度の低さが課題

福岡市調査ではPMSの不調を抱える女性が多いことが分かっています(図2)。一方、症状の認知度の低さが大きな課題です。男性の8割近くが「詳しくは知らない」という状況で、女性とのギャップがみられます(図3)。まずは「正しく知る」ことが必要です。

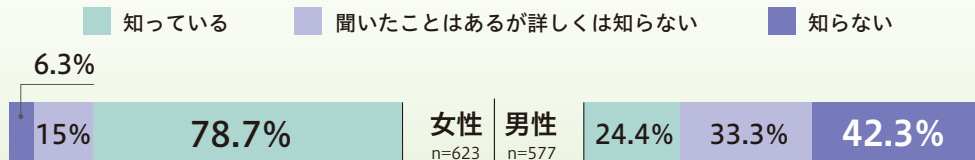


図2 | PMSの症状を抱える割合(年代別)



n=119 n=128 n=148
※調査対象者:福岡市内で働く女性 出典/福岡市(※)

図3 | PMSの認知度



出典/福岡市(※)

※調査対象者:福岡市内で働く20~60代男女

※PMS(月経前症候群)とは、月経の約3~10日前に現れる不調で、頭痛・腹痛などの体の症状や、イライラ・憂うつなどの心の症状など様々な不調が起こります。PMSの中でも精神症状が特に強く出てしまう状態をPMDD(月経前不快気分障害)といいます。

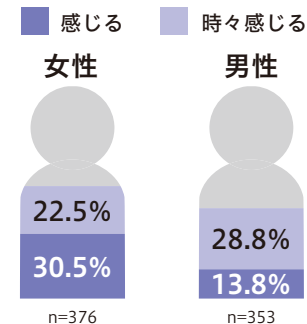
▶ 更年期障害

男女ともに様々な不調に悩んでいる

更年期障害は、主に45~55歳頃の女性に多く、ほてりや多汗、イライラなど、様々な心身の不調が現れます。また、性ホルモンの分泌低下が始まる40歳代以降の男性にも症状が出るとされ(図4)、男女ともにキャリアの後期に影響する不調の一つです。



図4 | 更年期障害の症状を抱える割合



n=376 n=353
※調査対象者:福岡市内で働く40~60代男女 出典/福岡市(※)

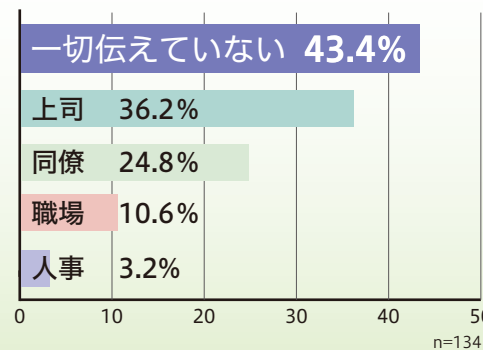
▶ 不妊治療

職場に言わずに両立している人も

不妊治療と仕事を両立している人のうち、仕事との両立の難しさを感じる人は9割(出典/福岡市*)。困難を感じる当事者が多いにも関わらず、治療のことを職場に伝えられない人も多いのが現状です(図5)。まずは当事者が一人で抱え込まず、職場に相談できる仕組みづくりが求められます。



図5 | 職場の誰に伝えているか



n=134
※調査対象者:不妊治療経験者及び予定者 出典/福岡市(※)

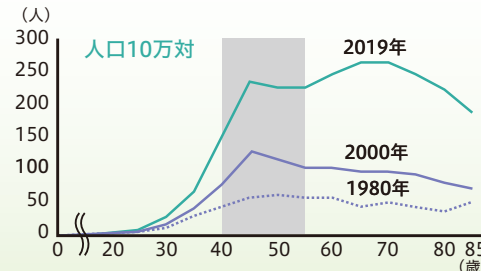
▶ 女性特有のがん

働き盛りの女性の罹患率が高い

女性特有のがん(※3)の中でも罹患率第1位が乳がん、罹患率も年々増加しています(図6)。また、女性特有のがんを経験した女性の3~4割が、管理職昇進やキャリアアップに難しさを感じる(出典/福岡市*)など、キャリア形成への影響がうかがえます。



図6 | 年齢階級別がん罹患率推移:乳がん



注:1980年は上皮内がん含む。
出典/公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計2023」より
※3 乳がんや子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんのこと
*の出典はすべて令和4年度福岡市「健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査」より